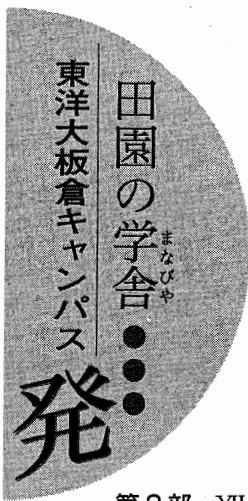


# 館林で国際協力 フェアトレード実践編

国際地域学部国際地域学科3年

伊藤あゆみ、前田 嶺



～第3部 XII

私たちが「島」では「フェアトレード」を中心に発展途上の文化や国際協力について勉強しています。フェアトレードとは直訳すると「公正な貿易」という意味で、ただ資金的援助をするのではなく、適正な価格で商品取引を継続することで、途上国の人々の生活向上を支えることを目指しています。私たち消費者にとっては、買い物を通してできる身近な国際協力のかたちです。



館林まち祭(06年5月)での販売。右端が筆者の伊藤さん

フェアトレード製品には、コーヒーやバナナ、チョコレートのような食品から、手工芸品や衣服、雑貨までさまざまな商品があります。現在、フェアトレード商品を扱っている団体は日本でも増え、店舗数は数百に達しています。

私たちは「島」では「フェアトレード」を中心に発展途上の文化や国際協力について勉強しています。フェアトレードとは直訳すると「公正な貿易」という意味で、ただ資金的援助をするのではなく、適正な価格で商品取引を継続することで、途上国の人々の生活向上を支えることを目指しています。私たち消費者にとっては、買い物を通してできる身近な国際協力のかたちです。

フェアトレード製品には、コーヒーやバナナ、チョコレートのような食品から、手工芸品や衣服、雑貨までさまざまな商品があります。現在、フェアトレード商品を扱っている団体は日本でも増え、店舗数は数百に達しています。

し、市場も30億円規模と見積もられています。人口8000万人のドバイで、年間売り上げが80億円といわれています。日本の市場はまだ大きくない可能性を持っています。

私たちはこの一年間、教室内だけでなく、都内各地のフェアトレード団体を訪問したり、実際に商品のカレーを作ったりと、さまざまな活動をしてきました。

海外での研修としてはバンクアラブの生産者団体を訪問しましたが、国内での最大のイベントは、夏休みの8月16日から22日までの一週間、館林市のアゼリアモールの一画をお借りし

で行った販売です。この販売では、4団体から総額260万円の商品を委託させていただきました。

ゼミのメンバーが4つのグループに分かれ、それぞれ商品選考から団体との交渉、支払いや返品までを自分たちで行いました。販売には、バンクアラブの伝統刺繍ノクシカタ、オーガニックコットンのTシャツ、コーヒーやクッキー、民族楽器やアクセサリーなど多彩な商品展開で臨みました。

私たちは、フェアトレード商品の販売に当たって、一つの目標をもって取り組みました。それは、もっと多くの方に「フェアトレードを知ってもらおう」ということ

いものが選ばれ、出来上がった商品は作り手のぬくもりが感じられます。こんないいこと尽くしなのに、知名度はまだ高

アゼリアモールに登場した巨大ノクシカタ

授業中はもちろん、休み時間や休日にも集まって準備をし、アゼリアモールのマネージャーの中村さんとも何度か打ち合わせをしました。

前田が販売に力を入れたのは「ジュート」製品です。ジュートとは、「黄麻」とも呼ばれる麻の一種です。燃やしても有害物質が発生せず、やがて土に返るジュートは、環境への負荷が少ない素材として注目されています。日本でもかつて九州で生産されていたらしいのですが、現在は主に南アジアの国々が生産地となっています。

丈夫で保水性に優れているため、バッグや買い物袋、さらには財布やサンダルなど、さまざまな形で商品化されています。レジ袋からマイバッグへという流れの中で、たくさん売りたいとがんばりましたが、売れ行きはまあまあといったところでした。

一週間の販売を通して「フェアトレード」を知ってもらうという目標は、ある程度達成できたという手応えを感じました。今後は後輩たちが引き継ぎ活動を続けていって、近いうちにフェアトレードが当たり前のことになればいいと思います。

国際地域学部長の藤井先生も買い物に来てくれました

国際地域学部長の藤井先生も買い物に来てくれました